



さとのかせ NO. 149

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
10月号 2007年10月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地
TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

待ったなしの地球環境保全行動



◇アイガモが稲に及ぼす効果は？

アイガモが稲に及ぼす効果は、古野隆雄著「アイガモ 水稲同時作」(農文協)によると、次のようなことが挙げられています。その第一は、雑草防除効果です。まず、雑草を食べる、雑草の種子を食べる、発芽しかかった種子を浮かせる、泥の中に雑草を沈める、濁水で光合成を抑制する、濁水で種子の発芽を抑制するなどです。雑草の中でもコナギは大好きで、よく食べますし、ヒエなどもたべるようです。第二は、害虫防除効果です。鳥類は昆虫の最大の天敵です。特に雛鳥は、虫が大好きで、水田に始めて放されると、次々と虫ばかり食べて回ります。第三は、養分供給効果です。一つは、アイガモの糞に由来するものであり、もう一つは、もともとある土壌中の有機物をアイガモの行動が分解を促し、地力養分が供給されるものです。第四は、代かき中耕濁水効果であり、第五は、ジャンボタニシ防除効果で、アイガモは、貝類が好物らしく、体の成長につれて、大きなジャンボタニシを食べるそうです。第六は、イネに刺激を与える効果です。また、水田がアイガモに与える効果としては、餌の供給、豊富な水と生活の場の提供などです。

<参考文献 古野隆雄著「アイガモ 水稲同時作」(農文協)>



9月のセンター行事

- ・『米づくり・稲刈りをしよう』（9日）
- ・『竹かご教室』（30日）



《『米づくり・稲刈りをしよう』》

◇水田（生態園）にアイガモがやってきた！

センター長の発案で、当センターの水田にアイガモを導入することになり、もち稲の水田の周囲に、高さ約1.5mの網で囲み、野鳥から保護するために上面にテグスを張りました。そして、隅にねぐらとなる小屋を設置し、田植えを終えてから数週間後にふ化して間もない、10羽のアイガモを迎えました。最初真新しい小屋に入れられたアイガモの雛鳥たちは、ひとかたまりになって、なかなか外に出ようとしませんでした。そのうちに勇気のあるものが先頭になって、活着して間もない稲の苗の間を群れをなして泳ぎ始めました。最初のうちは、野鳥や野獣などに襲われるのではないかと、心配して見守っていましたが、私たちの心配をよそに、稲の生長とともにスクスクと育ち、時には周囲を囲った網の下をくぐって外の畦道^{あぜみち}を散歩したり、隣の水田に入ったりしていました。大きく成長しても飛び立つことはありませんでしたが、次第に親の形質を表してきて、首回りがマガモのように濃い緑色をしたものが半数以上になってきました。稲が穂を出し始めたところで、水田に入ることをやめさせ、片側の一角に水溜まりを設けた場所に生活場所を定めました。餌は、鶏と同じでトウモロコシを主体とした配合餌で、時々コナギなどの葉っぱを与えました。また、8月の降水量の少ない時期には、ビニルシートで水場を作ってあげました。アイガモが稲の生長に及ぼす影響は大きく、その効果は収量が例年よりも増していることで証明されました。



◇台風一過、好天に恵まれた稲刈り

関東地方に上陸して、東北地方へと縦断した台風9号は、様々な被害をもたらしたことが後で徐々に判明してきました。千葉県では、ほぼ刈り入れを終えたころでしたので、稲作の面では大きな被害を免れることができましたと思います。当センターの稲刈りは、それから2日後ということなので、それなりの手立ては講じたものの、やはり雨水が残っている部分があり、刈り入れに苦労しました。当日キャンセルの参加者もいて、やや少な目の人数でしたが、子供達の参加は運動会時期とも重なったためか少なく、多くは大人たちで、南風

で倒された稲を一株一株起こしながら刈り取りました。適当な量を刈り取ると、「よりこみ結び」でしっかりと束ね、半分以上刈り取ったあたりで、「おだかけ」（稲架に掛けること）と並行しながら進めました。何人か大人たちに混じって参加した子供達も最後まで汗をぬぐいながら頑張っ^て刈り取っていました。途中、休憩を入れて1時間20分くらいで初期の目標に達したところで、終了としました。汚れを水できれいに落としてから、稲作



のこれまでと、これからの処理等についてお話をし、明治、大正、昭和初期頃に使用してきた農機具（千歯こき、足踏み脱穀機、^{とうみ}唐箕、米俵、手押し除草機など）を見ていただき、動力源は人力であったものの、現在も原理的には同様の機械が使用されていることなどを操作してもらいながら説明しました。その後、刈り終えておだかけをされた稲を見ながら、縁側でセンターからサービスの味噌汁をすすりながらの昼食としました。初体験の人が多く、農作業の大変さと収穫時の充実感を味わっていただきました。

◇水稲の高温障害をどう克服するか？

農水省によると、わが国の水稲収量は、東北、北陸、信越地方が高く、西南暖地で低い傾向にあります。このような水稲収量の違いの要因として、高温障害が今注目されています。中でも白未熟粒（乳白粒、心白粒、腹白未熟粒、背白粒、基部未熟粒など胚乳に白濁をもつ未熟粒の総称）の発生が高温によって増大する原因として、主に「胚乳のデンプン合成サイトへのデンプン合成基質（糖など）の供給能力不足や胚乳が基質を受け入れてデンプンを合成する能力の低下」が挙げられています。そこで、対策として「移植時期の繰り下げ、適正に籾数の制御・誘導、栽植密度の調整、施肥法の改善、早期落水の防止、地力向上と作土層の確保による根系生育促進、作期分散や圃場内の地力の均一化」を提案しております。九州地方では、高温耐性を有する「にこまる」などの新品種の開発・育成も進められているようです。

（渡邊美利）

《『竹かご教室』》

『竹かご教室』への人気は高く、今年もキャンセル待ちの人がかなり出ました。さて、今年度は、剥いだひごが乾燥しやすいことを考慮して、基本的に週2回（土、日）に実施するように計画しました。また、既に過去何回か経験している方のことを考慮して、習熟度に適した内容を用意して実施することにしました。まず、手初めは、「めかご」作りです。これは、六つ目のざるで、1日で完成する予定で取組みました。

（渡邊美利）



和泉-日在浦だより 秋の浜辺 (10/1)



水平線からの日の出(和泉浦 9/21)

[水平線からの日の出]

ようやく秋を迎え 澄み切った空気の下、いすみ市の海岸では雲ひとつない水平線から紅色の光芒を伴い太陽が昇ってくるのが見られました。台風9号通過後、数十cm厚さに新しい砂で覆われた5kmの海岸をパトロールしウミガメ観察をするのは、実に爽快な気分です。正月の初日の出がいつも厚い雲に覆われているのとは対照的な朝日の景観です。

[産卵巣6ヶ所のうち5ヶ所で孵化]

いすみ市の海岸では、今年アカウミガメの上陸は8ヶ所 (2ヶ所はUターン) 産卵は6ヶ所です。現在まで5ヶ所で孵化があり、子ガメが太平洋から米大陸へ向け旅立っています。最後の産卵巣(8月26日)より10月下旬から11月初旬の孵化が見込まれますが、順調にあって子ガメの旅立ちがあれば、世界的に見ても北半球でもっとも遅い時期のアカウミガメ孵化の記録達成となります。



台風一過の産卵巣(9/7)

[幸運だった夷隅川河口左岸の産卵巣]

夷隅川河口左岸は年中砂の大移動を繰り返していて、去年は数回の台風により砂浜が奥の方から3万立方m規模で流出しました。今夏も心配していましたが、土用波と台風9号により砂浜の半分が大規模に北側に移動したため、7月29日親ガメを目撃した産卵巣から渚線までの距離が4分の1に減りました。保護囲いや表示プレートの流失、数回の冠水を乗り越えて数十匹孵化し、子ガメが旅立ちました(9月22日)。産卵後の台風は1回だけだったので命拾いできたのでしょうか。



玉前神社前 日在浦 (9/23)

[神輿が海岸にくり出す]

9月23日秋祭りの朝は日在浦の波打際で荒波を背に、玉前(たまさき)神社の神輿を担ぐ男たちの祭り支度の姿が勇壮でした。子供たちも加わり、往時の村祭りを偲ばせる素朴な行事は、祭りの原点と感じ入りました。午後には大原海水浴場に各神社が終結し10数基の神輿が海中に乗り入れ、「大原はだか祭り」観光客数万人の大歓声を浴び、その盛況が新聞等で報じら

れました。

[森谷 洵 (もりや ふかし)]

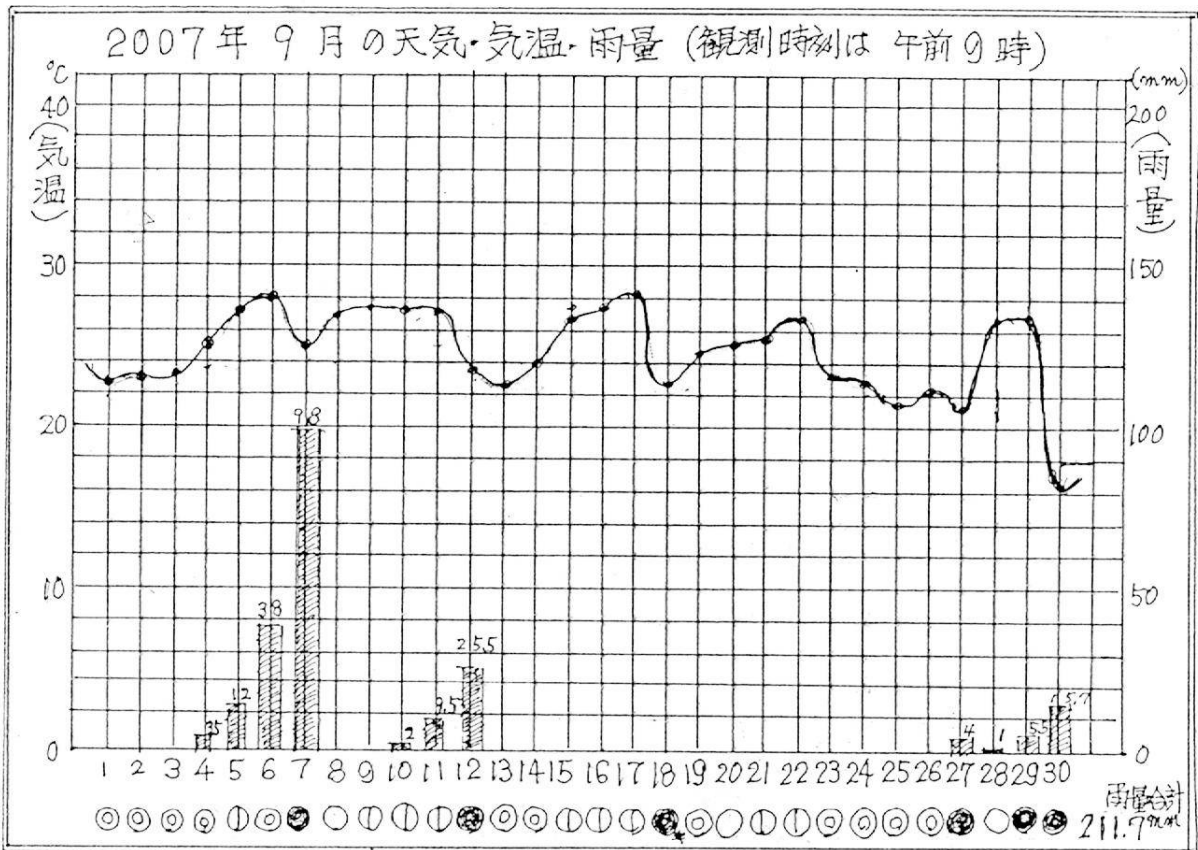
◎今、いすみでは???

農家の仕事は、この辺では、1軒で稲刈りが始まると、急に、他の家でも稲刈りが始まり、その他の仕事も同じです。今、いすみでは、「稲刈り」はほとんど終了し、荒起こしも、大部分進み、70%位の水田が荒起こしされています。

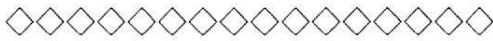
今年の天候は、後へ後へと伸び勝ちでしたが、秋の彼岸の頃から、ようやく暑さから開放されるような天候になりました。と言っても、時々、より戻しのような暑い日が続いています。また、8月は大変雨が少なかったが、9月上旬に集中して降り、中旬、下旬は25mm位しかありませんでした。それでも畑仕事は何とか進み、ハクサイ等も畑に見えます。

センター地区はすっかり秋の気配に包まれてきました。イネ科の野草の実を付けた穂は、風に吹かれ、木の実も緑色が濃くなったり、色付いたものが見えてきました。

先ず、開花していた野草には……ヒガンバナ（ヒガンバナ科）、カントウヨメナ（キク科）、ユウガギク（キク科）、ヒメジョオン（キク科）、カタバミ（カタバミ科）、タカサブロウ（キク科）、オトギリソウ（オトギリソウ科）、ゲンノショウコ（フウロソウ科）、ツククサ（ツククサ科）、アキノノゲシ（キク科）、キツネノマゴ（キツネノマゴ科）、ヤマハギ（マメ科）、シロバナノサクラタデ（タデ科）、キンミズヒキ（バラ科）、セイヨウタンポポ（キク科）、シロツメクサ（マメ科）、ムラサキツメクサ（マメ科）、ツルマメ（マメ科）等々が見られました。（芝崎昌彦）



(○:快晴(3日), ⊙:晴(9日), ⊕:曇り(12日), ●:雨(6日))



10月の行事案内



◇『竹かご教室』全5回中の② 定員20名
 日時 10月6日(土) 9:30~16:00
 場所 ネイチャーセンター

参加対象 高校生以上、全5回参加できる人で、途中からの参加はできません。
 持ち物 竹割り、竹引き鋸、剪定ばさみ、膝当て、軍手、お弁当

◇『竹かご教室』全5回中の③ 定員20名
 日時 10月7日(日) 9:30~16:00
 場所と持ち物は①と同じ。

◇『竹かご教室』全5回中の④ 定員20名
 日時 10月13日(土) 9:30~16:00
 場所と持ち物は①と同じ

◇『竹かご教室』全5回中の⑤ 定員20名
 日時 10月14日(日) 9:30~16:00
 場所と持ち物は①と同じ

◇『芋掘りをしよう』 定員40名
 日時 10月20日(日) 9:30~13:00
 場所 センター地区 生態園(畑)
 持ち物 軍手、移植ごて、長靴、お弁当
 (雨天順延10/21)

《11月の行事予定》

◇『わらでおきもの細工をしよう』定員20名
 日時 11月11日(日) 9:30~15:00
 参加対象 中学生以上

場所 ネイチャーセンター
 持ち物 工作ばさみ、座布団、寒くない服装、お弁当

『第11回 さとの文化祭』 自由参観
 期間 11月17日~25日まで
 場所 正ネイチャーセンター
 作品応募 お問い合わせください。
 作品搬入 10月27日(土)~11月4日まで

※10月2日(火)午前9時から、12月の行事申し込みを受け付けます。

いすみ楊枝

—千葉県伝統的工芸品—

日時 10月21日(日) 9:30~16:30
 場所 ネイチャーセンター
 講師 高木 守人氏
 参加料 無料(材料費実費負担)
 内容 楊枝・花入れ・茶杓作り

センターでは、千葉県伝統的工芸に指定されている「いすみ楊枝」を、県内外に広く紹介するために毎月1回、高木守人氏に実演をしていただいております。次回は、11月18日(日)の予定です。

《12月の行事予告》

◇『つるでかごづくり』 定員20名
 日時 12月2日(日) 9:30~16:00

場所 センター地区
 持ち物 鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、山に入れる服装、お弁当

参加対象 高校生以上

◇『もちつきをしよう』 定員40名
 日時 12月15日(土) 9:30~14:00

場所 センター地区(デイキャンプ場)
 持ち物 寒くない服装、タオル

◇『おかざりをつくろう』定員午前・午後各20名
 日時 12月23日(日) 午前の部 9:00 12:00
 午後の部 13:00 16:00

場所 ネイチャーセンター
 持ち物 材料費一人400円程度、工作ばさみ、座布団、寒くない服装

行事への参加申し込み、お問い合わせは、☎(0470-86-5251)または、直接センター事務室にお申し出ください。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

*FAX可(0470-86-5252)

*eメール可(メールアドレス: info@isumi-sato.com)

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ずセンターまでご連絡下さい。

※「さとのかぜ」の定期購読を希望される方は、郵送料として、80円切手12枚、または、960円にて受け付けます。

◆◆◆◆ 利用案内 ◆◆◆◆

休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日
 開館時間: 9:00~16:30、 入館料: 無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。